ください．

また，本例会でのご発表を随時募集しております．ご希望の方は，演題・希望する月を明記の上事務局（同前）までご連絡下さい．原則として発表者は会員に限ります．

例会記録

第59回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・日本医史学会　合同例会

令和4年9月17日（土）
鶴見大学会館

Ⅰ　依頼講演

「西郷隆盛と上野戦争における戦傷兵横浜輸送の算段」　岩下哲典（東洋大学文学部 教授）

Ⅱ　特別講演

1.「緒方家と森鴎外」
石井元章（大阪芸術大学大学院 教授）

2.「緒方家に迎えられたエウジェニア＝ジョコンダ＝豊の生涯」
緒方洪貴（兵庫医科大学 麻酔科学・疼痛制御科学）

エクスカーション：

「曹洞宗大本山總持寺 諸堂拝観」

日本医史学会10月例会

令和4年10月22日（土）
オンライン開催

1.「研医会図書館の蔵書紹介」
安部郁子（公益財団法人研医会）

2.「郡上医学の夢～美濃郡上藩の医師修業，同地方の江戸期医事」
森永正文（成医会 もりなが耳鼻咽喉科）

書　評

代表編者：小曾戸洋，共同編者：町泉寿郎
『杏雨書屋所蔵　医聖像集』

杏雨書屋は，日本に実在した医家の肖像集『杏雨書屋所蔵医家肖像集　初篇・二篇』2冊をこれまで刊行している．いずれも重厚な本だが，今回刊行された本書も，紫色のベルベットの装丁，271点（406ページ）の図版すべてをカラー収録，各作品の賛および印文もすべて翻刻解説された，実に豪華で充実した図像集である．

医聖とは，人々を病苦から救う，あるいは病苦から守ってくれると期待される，神格化された人や動物という．本書の医聖中，最も多く描かれるのは，神農像である．絵画として単独で，あるいは三人（黄帝，伏羲（ふくぎ）らと共に），二人，四人の中に，また彫像，印籠，刀の鍔にと様々な形で製作されている．

神農は，現代でも「神農祭」が行われるように，医薬の神として日本では漢方医や薬剤業者が祀り，古い医家には神農像のあるところも少なくなかった．本書にも二百点近い神農像が収録されて

いるが，その姿は実に多種多様で，一つの基準作を模写して拡大再生産したものではない．それぞれに画家の創意工夫があり，威厳のある姿，おどろおどろしい形相，いささかひょうきんな表情と個性がある．多様でも，像主が神農と分かるのは，頭の上に角があり，草衣をまとい，手に持つ草を口にする姿で描かれるからである．もともと農業神であった神農は，農耕に用いられる牛にちなんで，頭が牛，体は人間の姿でも描かれた．ところが時代が下り，地域が広がるにつれ，牛の角（つの）が頭のこぶやら帽子の角になっていく．草衣とは，木の葉で作られた蓑のようなもので，採薬師が身に着けるものであったという．手で持つ草を口にするのは，神農が百草を嘗めて毒の有無を見分けたと『淮南子（えなんじ）』にある文を典拠とするのだろう．本書には中国明代の版本に描かれた神農像も収録されるが，殆どは日本の江戸時代以降に製作されたものである．著名な作家によるものも，素人の手によるらしきものもある．

小曾戸洋氏によれば，日本では鎌倉時代の「馬医草紙」（1367年）に描かれたものが最古の神農像で，その後安土桃山そして江戸時代全期を通しておびただしい数の神農像が作られたという（『中国医学古典と日本』）．その言葉を実証する多数の神農像である．これらの神農像は，最古の本草書『神農本草経』と医薬の祖・神農の顕彰の意もあろうが，むしろ病気が治るように，健康であるようにと医療者と一般人が祈る対象として津々浦々で製作され存在したのだろう．多種多数の像から病気平癒，健康を願う人々のひたむきな思いが偲ばれ，声が聞こえるようだ．

次いで多数を占める肖像は，『傷寒論（しょうかんろん）』の著者，後漢の医師・張仲景（ちょうちゅうけい）像である．江戸時代に『傷寒論』は経方（湯液治療いわゆる漢方治療）の聖典として盛んに学ばれ，その研究書は四百種近くあったという（『中国医学古典と日本』）．そこで崇敬する本の著者である張仲景の像も描かれたのであろう．

ヒポクラテス像も11点を数える．ヒポクラテスは，医の倫理を説いたとされる古代ギリシャの名医，医聖である．ヒポクラテス像は，漢方医が神農を祀るのに倣い，蘭方医たちが阿蘭陀（おらんだ）正月に祀ったようだ．大槻玄沢が石川大浪に西洋の銅版画を模写させたものを嚆矢とする．緒方富雄氏によると，日本各地に西洋医術が普及するとともに，ヒポクラテス像も普及した（『日本におけるヒポクラテス賛美』）という．しかしその像姿は西洋画を写し典拠としているため，いくつかのパターンに分類される．神農像が多種多様であるのとは対照的ながら，西洋医術と共に西洋画法も日本に伝わっていく証左となろう．

その他，扁鵲（へんじゃく）・馬師皇（ばしこう）・少彦名命（すくなひこなのみこと）・白澤（はくたく）などの像が収録される．像主の数は限られているが，版本，巻物など形式も姿も多様で見飽きない．命を貴ぶ切実な願いに向き合って描かれた医聖像は，紛れもなく人類の文化遺産である．美術史の対象とはなってこなかったが，著名な画家の作品もあり，埋もれていた医聖像を収録した本書は，文化遺産として，さらに研究資料として，貴重である．資料を整理し，各図に懇切な解説を付けられた労苦に，改めて敬意を表したい．

（岩間眞知子）

［武田科学振興財団 杏雨書屋，〒541-0045 大阪市中央区道修町2-3-6，TEL. 06（6233）6108，2022年3月，31 cm，419頁，非売品］